

英彦の泉

聖母の騎士学園
同窓会会報

☎850-0012
長崎市本河内2-2-2
TEL095-823-4523
FAX095-823-4759
- 第22号 -

同窓会で 会いましょう

同窓会会長
赤本喜代次



今年、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」で、12か所が世界文化遺産に登録されました。禁教期にも拘らず、想像を絶する迫害や弾圧を受けながらも、秘かに信仰を守り続けた長崎と天草の潜伏キリシタンの奇跡をイコモスが認可したという事です。

日本のカトリック信者は45万人で、日本の人口の0.34%。長崎県は約6万1千人で、県人口の4.4%だそ



大浦天主堂(2018年6月ころ)

うです。長崎の場合、その殆どの先祖が迫害を経験したのではないでしょう。か。私自身、五島出身ですから、先祖もそうだったのかもしれませんが。先人たちの思いを少しでも理解できるように、まだ訪れたことのない遺跡巡りを決行する予定です。

教会以外で、長崎県、市町村までが盛り上がっていますが、先日、テレビを見ていたら、教会守の方が、「教会は折る場所で、観光の場所ではありません」と複雑な心境を語っておられました。観光産業での島や町の活性化は必要でしょうが、ひとりの信者として、冷静に見守っていこうと思っています。

崎濱校長先生が、司祭叙階50周年を迎えられました。心からお祝い申し上げます。時々、居酒屋へと呼び出させ

て頂きますが、いつも自然体で偉ぶる事もなく、我々の話もよく聞いてくださいます。学校も大変な状況でありますからご苦労も多いと思います。しかしながら、まだまだ頑張ってください願っています。

過日、長崎新聞に小崎登明修道士さん(89歳)の「ポージランド外務大臣名譽勲章」受勲の記事が掲載されました。国内で二人目だそうです。コルベ神父様の功績を後世に伝える語り部として、長年活動してきたことが受勲の理由です。こういった活動に対する評価は、我々の大いなる誇りです。長い



勲章を授与された小崎登明さん
tomaozaki.blogspot.com より

夏になれば

聖母の騎士高等学校校長
同窓会顧問 崎濱宏美



本河内を出て新日見トンネルを抜けると天気の良い日には遠くに雲仙岳が望まれ、近くにはほぼ正面に牧島が見える。昨年3月まで約15年間

ほっとした気分になってくる。子ども頃毎日海を見て育ってきたからであらう。

毎日のように通勤し、牧島の前に広がる海に目をやりながら癒されているものである。海は豊かな表情を持っている。穏やかに晴れた風いだ日ばかりではない。黒く濺んだような日もあり白い波がしらに泡立っていることもある。しかし、私にとっ

ては海であれば、それを見ただけで満々と満ちた海はきれいだと思う。しかし干潮でしかも大きく干上がった海岸を見ると今でも体内の血が騒いでしまうありさまである。引き潮の浜で、サザエやアワビ、各種貝などを採りに行っていた記憶がよみがえってくるからであろうか。あのころから60年あまりも過ぎ去ったのにどうしてなのか不思議に思う次第である。ところ

で、牧島の前に広がる東望の海では、忘れられない苦い体験をしたこともあった。

昭和34年春に卒業した私たち8名のうち、7名が当然のように修練に入った。修練者は寝るとき以外はいつでも修道服を着用しなければならず、長い裾の着物はかなり着心地が悪かった。

そして夏になって暑さと汗との戦いの日々が始まった。汗は服の縫い目に集まるのか、服が乾くと時々縫い目に添って白い塩ができていた。支給された修道服は1着だけで、着替えがなかったことも塩の原因であった。やむなく洗濯するときは茶色に色あせた古着を借りて済ませていたのだった。

そんな生活の中で、牧島の手前に広がる白い砂の遠浅の東望の浜での海水浴は、とても嬉しい贈り物だった。その時だけは修道服を脱ぎ、片道7キロの道を徒歩で喜び勇んで出かけていたものである。当時修道院所有の櫓船が一隻あり、矢上の船着き場に繋がれていた。私は小さいころから櫓をこいでいた経験があり、東望の浜の先の川を泳いで渡り、船を運んでき、時には牧島まで行って釣りやサザエ採りなどに利用していたのだった。

ある時、東望海水浴場の手前にある松林の所で船をつないで遊んでいると、近くの小学生たちが5名遊びに来た。2組の兄弟たちだった。「船に乗

りたい」というので、船に乗せ、少し漕ぎだして錨を下ろし、舟から飛び込んだり潜ったりして遊んでいた。1時間くらいいたところだろうか、松林のある岩場を見ると大きく波が砕けているのが見えた。「これでは岩場で子どもたちを下ろすには危険すぎる」と、私を含め4名乗っていた仲間たちと相談し、長さ約400メートルほどの海水浴場の真ん中たりの沖合に船を留め、そこから泳いで子どもたちを浜に上げようということになった。

海岸まで50メートル位の所で錨を下ろし、私が舟から下りてみると水深は腰位までであった。波が大きかったが、大丈夫と判断し、背丈の順で1年生の男の子から連れて行くことにした。先頭が出発し、次に3年生の男の子と女の子を連れて行くと、5年生と6年生の二人の女の子が残った。私が背が一番高かったので2人は私が連れることになっていった。6年生の子は泳げたが5年生の子は泳げないと言っていた。

3名の仲間が子どもたちをそれぞれ背中に負って岸に向かって泳ぎ出した後、私は2人と手をつないで岸に向かって歩き出した。台風が近づいてきたためであろうか、海岸で波が碎ける音と急に吹き出した風の音がうるさく、大きな声を出さないと話ができな

いと、腰までであった水深がだんだん深くなっていくのである。岸に近くなるほど深くなるのであった。そのうち大きな波が背後から来て私たちを超えて行った。2・3回はジャンプしてかわしていたが、とても大きな波が私たちを超えて行った。

すると恐ろしくなったのか泳げなかった5年生の子どもは私の首にしがみ付き、私の自由が利かなくなった。だけどもと数メートル進めば浅くなるだろうと考え我慢して歩いていたら、またもや大きな波が来、顔を海面に出せなかった私は海水を思い切り飲んでしまった。すると体から力が抜けていく感じになった。私は強引に首に巻き付けている手をほどき、左側にいた泳げる子どもにも「自分で泳いで！」と手を離した。右の子の手を上に向けて「助けて！」と大声で何回か叫んだ。ところが浜にいる人たちは笑顔ばかりで、こちらの異変に気が付いていない感じであった。

東望の浜の背後の小高い山の上にあった病院の赤い屋根は、いつもはきれいに見えていたのに、その時には不吉な色に見えた。そしてここで死ぬかもしれないという気持ちになり、明日の新聞にはきつと「19歳の青年小学生を道ずれに水死」と出るだろうと考えも浮かんできた。海水をかなり飲んでしまったためか力が出ない。そしてあ

きらめかけたその時、風に流されていった白い浮き輪が私の手に掛ったのである。

先に子どもたちを連れて岸に向かっていた仲間たちも手をかき返してきてくれ、砂浜にたどり着いた。ところが私の体がぶるぶると大きく震えだし止まらなくなった。仲間たちがさすってくれてもおさまらなかつた。20分ぐらいは震えていたものと思う。

今、東望の浜は無い。あの真っ白い砂浜だったところは埋め立てられてしまっている。松林も当然のように消えて団地等に変わっている。今更何を言っても愚痴になると思うが、白い砂浜や岩場の松林の姿を思い出す度に、やりきれない悲しい気持ちが襲ってくるのである。



牧島の前に広がる東望の海
長崎市・矢上大橋から、網場方面を観た景色(2018年7月)

学園だより



2018 平成30年 高総体 報告



県高校総体が6月1日(金)から開催されました。

【壮行会】

31日(木)、ビームライフルに出場する1年生の田崎龍威選手の激励のために、壮行会を行いました。田崎選手は、小江原の県警察学校で行われているライフル射撃クラブで指導を受けていますが、今回は高総体なので、学校の代表として出場してくれました。まず、田崎選手からの決意表明の後、校長先生と生徒会長からの激励の言葉がありました。その後、選手に全校生徒が書き込んだ色紙と、校長先生からメダイ(メリア様が刻まれた金属製の小さなお守り)が渡されました。今回高総体に出場する選手は田崎君一人ですが、全校生徒の応援に励まされ、緊張しながらも正々堂々と戦うことを誓っていました。

【開会式行進】

開会式が1日に佐世保総合グラウンドで行われました。この開会式では本校生徒全員で入場行進を行いました。旗手は2年生の栗木君。皆、よく練習をしていて堂々の行進を行うことができました。

出場選手のため、また本校の生徒たちの立派な姿をアピールするため一致団結しての行進でした。

【競技】

6月3日(日)、長崎県警察学校の敷地内にある射撃場でビームライフル射撃競技が行われました。2〜3年生ばかりの選手の中で1年生はただ一人でした。さすがに田崎選手も少し気後れたようですが、できるだけ平常心を保ちながら試合に臨んでいたようです。



ビームライフル競技は45分間の中で60発を打ち、的に当たった合計点数で競います。的の真ん中は10・8点。真ん中から外れる毎に中心からの距離に応じて点数が下がります。少しでもねらいがはずれると大きく点数が減少します。まさに、筋力・体力・集中力がものをいう競技です。

田崎選手は惜しくも予選敗退でしたが、来年につながる良い試合ができたと思います。なお、田崎選手の保護者の方が、壮行会での生徒たちの応援に対し、感謝の言葉を述べておられましたのでお伝えします。(廣島)



第15回学園劇定期公演

風花の丘 を終えて



「こんな状態ではお客さんに見せられないですよ。もう、演劇やるのやめましょう！」放課後の練習をのぞいたところ、二年生の数人がやってきて、そう言い出しました。「えー、やめる？本番まであと何週間？何で？」話を聞いて見ると、キャスト・スタッフのまとまりがなく、やる気がない生徒がいるとのこと。

隔年度実施している学園劇も、今回で15回目となりました。今回は「日本二十六聖人殉教420周年記念」と題し、10年前に上演した『風花』を再演しました。ただ、現在の生徒数では、受験前の3年生を除くと、1・2年生がほぼ全員でキャスト・スタッフを担当するということになります。受験が終わった3年生が、急遽キャストに加わりましたが、その他の3年生もスツッフとして、後輩の熱演を支えてく



同窓会では学園劇の援助金5万円を赤本会長から崎浜校長へ。また、お祝いの花も会場ホールに贈らせて頂きました。

れました。
夏休みから始まった練習では、演劇の経験がない生徒ばかりで、とまどいや葛藤があったのでしよう。普段一緒に生活していても、授業を越えたところでのコミュニケーションは難しかったらしく、「もうやめたい」と口にする生徒も見られ、冒頭のやりとりとなったようです。
しかし、11月15日の演劇当日、たくさんのお客様の前で熱演を終えた生徒の表情は、「やりきった！」という笑顔であふれていました。全員で一つの目標に向

かって進んだこと、本気でぶつかり合ったこと、これまでに経験したことのない日々だったはずですよ。
「オール聖母の騎士」で取り組んだ今回の演劇を終え、学校はすぐにいつもの穏やかな生活に戻りました。生徒の中には、自信と達成感、そしてこの学校の一員であることの自覚が、しっかりと刻まれたことでしょう。
同窓会の皆様のご支援、ご声援本当にありがとうございました。
(千住由貴子)

退職される 吉田先生、 新しく赴任される 3名の先生方の ごあいさつ



「退職」に寄せて 吉田博愛

67歳を迎えた今、40年ほど勤め上げた職場を去るにあたって、思いはひとつ。これまで多くの人に支えられてきたということに、ただただ感謝あるのみです。校長先生をはじめ、職場の先生方は言うに及ばず、陰に陽に学校を支えて下さった外部関係者の方々や家族、友人たちの温かい励ましに対して、心よりお礼を申し上げます。

いつかは誰にでも訪れる「退職」ですが、その有り体は様々です。人それぞれの行き末があるかと思えます。無量の感慨を胸に、これからの生に思いを託し、凧のように静かな時を過ごすことができれば、これほど幸せなことはないでしょう。モーツアルトの音楽に興じ、時には旨い酒を口にしながら油絵の制作に没頭できるなら、今の私にとってこれ以上の贅沢はありません。人との出会いがその後の人生に大き

く影響することはままありますが、私の場合は大学時代に出会った「恩師」でした。今は亡きその先生からは何よりも「淡々」と生きることを教えられ、分け隔てなく「清濁併せ呑み」なさいとも諭されましたが実現かなわず、それが少し心残りです。しかし人生の半分以上を過ごすこととなった「聖母の騎士学園」での来し方を、昇華された美しい思い出として大切に仕舞い、生きる糧として余生を全うする所存です。

皆々様、長い間ほんとにありがとうございました。

宜しく願います

堀尾恵子

今年度より聖母の騎士高校の教員となりました。堀尾恵子と申します。担当教科は数学で2年生の担任をしています。

私は大村市出身で、大村高校を卒業後、山口大学へ進学し、山口の私立学校で3年勤務しました。そして、地元長崎県に戻りたいと思い様々な巡り合わせを経て聖母の騎士高校に勤めさせていただくことになりました。

まだまだ未熟者ですが、日々生徒と向き合い周りの先生方と協力し合い頑張っています。生徒は中間考査、高総体も終わり、気づけばもう1学期期末試験で

す。限りある高校3年間、充実した日々となるよう指導していきます。どうぞこれから、よろしくお願い致します。

皆様とのご縁を大切に

満田勝也



この度ご縁があり、聖母の騎士高等学校に赴任することになりました。満田勝也と申します。長崎南山高校卒業後、長崎県立大学に進学し、2年間瓊浦高校で教員として勤務後、本校に参りました。

スポーツ（特に球技）をすることが趣味で、瓊浦高校ではサッカー部の顧問としており、昨年指導者・審判ライセンスを取得しました。私自身も度々、週末には選手としてプレーしています。



これまで教師という仕事を通して、多くの方とのかかわりがあり、今の私があると考えております。本校でも生徒とのかかわり、皆様とのご縁を大切にしながら、精進して参ります。よろしく願います。

よろしく願います

教頭 田代知二

素早く、しかも
冷静に判断する
「頭脳」



小さな変化も
見逃さない
「ひどみ」

常に
愛情で満タンの
「ハート」

かすかな
つぶやきも
聞き取る「耳」

熱く
教員を語る
「くちびる」

こんな人間に私はなりたい

聖母の騎士高等学校の一員に
なれたことを
心より感謝いたします!!
今後とも、ご支援のほど
よろしく願い申し上げます。

各地区からの お便り



「関東支部便り」 同窓会支部報告と 教会めぐり

関東支部事務局 徳永義雄

「2018年度関東支部同窓会報告」

2018年度関東支部の同窓会が六月の最後の土曜日の30日に赤羽教会で開催されました。今回の出席者はいつもの出席者に加え、遠くは北海道帯広からの新しい同窓生が参加されました。そして昨年からご案内していただきました水浦征男神父様にもご参加頂き盛大に金祝のお祝いを執り行いました。お祝いと聖歌のプレゼントを差し上げてさぞかしお慶び頂いたことと思います。さて、最近思う事があります。毎年同窓会を重ねるたびに今までお元気に会に参加し、会を導いて下さった方々が体調を崩され、中には原因不明の病にかかり苦しんでおられる方がいらっしやいます。皆さんにお願いがあります。どうか

皆さんでこの方々のためにお祈りをしましょう。

「教会巡りー雪ノ下教会」

今回の教会は鎌倉市のカトリック雪ノ下教会です。雪ノ下とはなんとも涼しげな名前ですね。

雪ノ下という言葉の起源は、鶴岡八幡宮にある古い書物によると、源頼朝の食事に雪を出すため、雪を貯蔵しておく雪屋を八幡宮の裏あたりに保存したためとか、このあたりは「ゆきのした」という草花が多くはえていたからともいわれています。

鎌倉駅東口の改札を出て鶴岡八幡宮の参道の赤い大きな鳥居の向こうに教会の十字架が見えます。駅から五分と非常に近く便利な教会です。この教会は先輩の平松壽護（きよむね）さんの所属教会です。

「歌うことは祈ること」

この教会は多彩な活動がなされています。ボイスアウト、ガールスカウトをはじめ、少年合唱団のグロリア少年合唱団があります。無料体験レッスンがあり、対象は2歳から小学2年までの男子となっています。わたしにはつい最近1歳をむかえた孫がいますが、あと1年で体験レッスンが受けられますね。

平松さんは教会の役員の他に聖歌隊にもはいつておられ教会の2階の聖歌

隊席で伸びやかなきれいな声で歌っておられます。一昨年最愛の奥様をなくされましたが、歌うことでお祈りがなされ天国の奥様はさぞかしお慶びのことと思います。

雪ノ下教会は鎌倉キリシタンの殉教者にも捧げられた教会です。興味のある方は「雪ノ下教会のホームページ」鎌倉キリシタンの殉教」をごらんください。

「関東支部便り」 全てを主のみ旨に 委ねます。

東京都在住 山野尊行

関東地方は例年になく早く梅雨が明けて猛暑に突入しました。同窓生の皆さん、いかがお過ごしですか、近年の地震、豪雨洪水、火山噴火といった天変地異で人々の心も荒廃し、繰り返される政界財界の不正、汚職、連日報道される強盗殺人、陰湿ないじめ、しつと称する幼児虐待等々身の毛がよだつような暗いニュースが蔓延するようになりました。

そういった背景下で昨年暮れ11月23日長崎で開催された、司祭叙階50周年の崎濱宏美校長神父と押川寿夫司教、他3人のブラザー達の金銀祝の慶事に参列させて頂いたことは嫌な世相をしる由も忘れさせてくれる喜びと感謝のひと時でした。前夜祭、当日の荘厳ミサと



雪ノ下教会にて

パーティーには全国からお祝に駆け付けた人々で大変な賑わいでした。金銀祝を迎えられた聖職者の皆さんには心からの祝辞を申し上げます。そして神様に頂いている残された時間も有意義に刻んでいかれますよう願って止みません。

華やかな祝賀会では懐かしい知人や友人にお会いする一方、先に他界した、親兄弟や親しくして頂いた聖職者、親戚、友人知人を思い出したりもして一抹の寂しさも感じました。

6月末日東京赤羽教会で水浦征男神父様の叙階50周年お祝を兼ねて開催された関東地区同窓会のミサの説教で主任司祭の永尾稔神父様が各地の修道院の合併縮小、会員の高齢化、神学生の減少、加えて聖母の騎士学園入学希望者が年々低下しており学校の存続運営が危ぶまれるかもしれないとの危機的なお話にはショックを受けました。神がどのようなご計画をされてるのか知る由もありませんが修道会に少しでもお世話になった事が在る皆さんの問題

として真剣に検討する必要が在るので
は思っています。

来年迎える傘寿を前にして私も終活
の一つとして昨年暮れより3年半掛け
て毎週一回聖書を読む。聖書100週
間」と云う講座に参加したり、葬儀の
手伝いをしたりと胆タンとした毎日を
送っていましたところ色々なトピック・
エピソードに遭遇する事になりました。

今年初めに伝手を頼って「TBS—BS
の撮影スタッフがサレジオ会鷺沼教会
を訪ねてきました。目的はアマゾン
のバックアップのもと、今年秋口放
映予定で製作を進めている連続ドラ
マ「MAGI天正遣欧少年使節」の宗
教的な場面の指導依頼でした。浦上出
身の元ドンボスコ社社長でカトリック
生活編集長をされていた、松尾貢神父
様と私がアシスタントとして対応しま
した。十字の切り方、第二バチカン公
会議前に使用していた、祭服、ラテン
語ミサとお祈り、グレゴリオ聖歌、聖
体拝領、洗礼、葬式、聖具の準備と取
り扱い等々、スタッフには殆どカトリ
クの知識が在りませんでした。鷺沼教
会で2度(5時間ずつ)練馬区大泉学
園の東映撮影所(5時間)と栃木足利
学園での撮影(10時間)に付き合いま
した。撮影はスペイン、ポルトガル等
でも続けられており、イケメン俳優の
野村周平や緒方敦他多くの俳優の卵達
が着物姿の小神学生の役で出演します。

昔の聖母の騎士の小神学生達を思い出
したりしました。司祭修道者の役は4
〜5人のアメリカ人が受け持ちました。
完成を楽しみにしているところです。

話は変わりますが、皆さん今年ロシ
アで開催されたワールド・サッカーを
ご蘭になりましたか、私は日本チーム
の活躍には興奮し少々寝不足になりま
した。実は今年4月後半(日本の1、
2月の気候)にモスクワとサンクトペ
テルブルグに3連泊ずつしてロシアを
別の角度から見る機会に恵まられま
した。世界最大の国土を持つロシアの人
口は1億4千7百万人で、首都モスク
ワに1350万人、第二の都市サンク
トペテルブルグに500万人が住んで
おり。両方ともヨーロッパの都市と同
じような小奇麗な街並みで、食事もそ
こそこ頂けましたが殆どの大通りは渋
滞してました。私が観光した先は主に
世界遺産の大聖堂、大修道院と700
人の神学生がいるモスクワの神学校、
エルミタージュ等の美術館、クレムリ
ン赤の広場、エカテリーナの宮殿、本
場のバレエ鑑賞等でした。

ロシアと云う国は内戦に明け暮れた
末10世紀ごろノルマン系バイキングに
よって確立され、ギリシャ正教を国教
に取り入れられました。しかし帝政ロシア
の時代、ファティマに聖母マリアが出
現し、革命が起きた1917年頃まで
は5%の王侯貴族がおごり高ぶり不正



2017年11月23日、長崎・本河内教会で



枢機卿になられた前田万葉師(左)



汚職強奪等を繰り返し、圧迫と軽蔑に
堪えていた95%の人々を農奴(奴隸)
として扱い家畜以下の生活をさせ、更
に1922年のソ連共産国の成立から
1991年ソ連崩壊まではマルクス・
レーニン主義者、悪名高きスターリン
らによって宗教を含むあらゆる弾圧に
苦しんだ多くの人々は神の助けを求め
たようです。有名な聖画、「イコン」
は神や聖人側から庶民を覗く逆遠近法
と云う方法で描かれているそうです。
大半の人々はキリストを信じ聖書を読
み、別の道を通って、神の国を目指し
ている姿は私たちと同じ神の民のよう
に感じました。物心ついた頃よりソ
連・ロシアを敵視し好感をもった事が
在りませんでした。今回のロシア旅
行で考え方を少々修正しなければと思
うようになりました。

このところの司教様方の人事の
ニュースには驚きと喜びを持って接し
ています。五島仲知教会ご出身の前田
万葉枢機卿は司祭で中央協議会事務局
長時代の2008年に茅ヶ崎教会での
長崎県人会の指導にお出で頂きその後
何回かお目にかかりました。次に9月
24日(休日)に埼玉教区の司教に叙階
される山野内倫昭神父様は10人兄弟の
長男で上から4人は司祭です。現在サ
レジオ会の管区長で時々お逢いします
が優しく素晴らしい神父です。その他
大阪教区に誕生する2人の補佐司教、
数回お会いしたことのある鹿児島教区
の司教に内定している神学院長の中野
裕明神父様と朗報が続いています。最
後に東京カテドラルで毎年開催されて
いるグレゴリオ聖歌での荘厳ミサは今
年は10月20日(土)に新しい東京教区
長、菊池功大司教司式のもとで行われ
るとの連絡を受けました。日本の教会
に新しい風が吹き始めているよう
です。全てを神のみ旨に委ねます。
聖母の騎士でのお祝と茅ヶ崎での前
田万葉神父様と鷺沼教会のパーティ
(2015年)で山野内倫昭神父様とご
一緒に頂いたスナップをご笑覧くだ
さい。親愛なる同窓生の皆様酷暑の折
どうぞご自愛下さい。

●山間教会での草刈り作業

2017年7月21日 ☀ 午前中に作業を終了、その後刈り取った草を龍郷まで搬送処分。カメラを忘れたので証拠写真は省略。教会がスッキリとした。

●50年ぶりの再会

京都府にお住まいの用沢修さんが奄美に来ました。ご両親は奄美出身です。



50年の時を越え
すっかり白髪に
すて再会、青堀も



2017 nendo
奄美支部の
活動この1年
AMAMI SHIBU

名瀬修道院跡に今もあるご像は用沢君の作品です

アシジの聖フランシスコ

●希望の星学園奉仕作業

2017年4月22日 ☀ 今年も各自の高圧洗浄機を持参して出動！

高圧洗浄機もお手の物
プロ並み評判のチーム



食堂の換気扇で黒壁状態が白に (山田)



白いタイルに復活
丁寧な作業 (平国光)



施設の正門を近藤が念入りに

●聖コルベの記念ミサ

2017年8月12日 ☀ 今年は、マリア祭と重なったために聖体賛美式とロザリオに変更。



聖コルベ記念ミサに代えて
中庭のルルド前でロザリオ



左から 安田、山田、池田



聖体賛美式 聖堂内に集う信者

●夏がくれば思い出す～♪

2017年8月22日 ☀ ニコラス神父が久しぶりで島に戻って来られたので……お誘いして。



本日カツオのたたきがとても旨いです
今宵は焼酎、それともおビールで？



奄美最高！
夏はいいネ
うまーイサ



(後列) 田下、村田、山田、押川、配山、安田、池田
(前列) 安田、金神父、松永神父、ニコラス神父、柳本神父、大茂

●池田尚志さん 在世フランスコ会に入会

2017年10月3日 奄美副支部長の池田尚志が入会しました。



入会式の後、4人の司祭と記念撮影



入会式に臨む池田尚志



在世会総出の歓迎会
が婦人たちの手料理
が振舞われました



●ゼローム神父15周年追悼ミサ

2018年3月18日 平日を避けて一日前に行いました。



朗読
山田



林常広さん(左)



聖体拝領
久保



ゼローム神父
帰天15周年感謝ミサ

侍者当番
池田

ミサの共同祈願、林さん『私が孤独の中で入院生活をしていた時、ただ一人優しく声を掛けて下さったのがゼローム神父さまでした。びっくりしました、心からとても嬉しかったです。それ以来、教会に通いミサにあずかることが出来るようになりました。主よ、あなたがゼローム神父さまを通してお与えになったあふれる恵を思い起こし、このミサの中であなたを賛美し感謝の祈りをお捧げ致します。』(特別寄稿・13頁)あり

●アルナルド谷村神父様の追悼ミサと納骨式

2018年5月26日 谷村神父様の追悼ミサ、納骨式。

5名の司祭による共同司式



マリア教会の
主任司祭でした

他の兄弟が眠る
納骨堂に安置

谷村神父様を慕う信者
が大勢集いました



左から、金神父、内野神父、
田端神父(納骨の後)



世の光・地の塩

ゼローム神父〔15周年〕／ラファエル森井実修道士〔35周年〕

受け継がれる信仰遺産奄美大島編



■特別寄稿

有言実行・率先垂範のお手本

●村田 正男〔在世フランススコ会〕

〔祈りの時間を取ることは大切〕

朝の祈りの中で福音を読む。聖書を読まない人はキリストを知らない。

福音を毎日の生活にあてはまるよう努力する。(福音に基づいたしつかりした祈り福音的生活)

神の霊が消えないように。祈りは神との一致の時間。イエスと親しい信仰を深めるために

その日の聖書、祈りの精神を養うこと。何よりも注意すべきことは、神の霊、神の精神が消えないように。

仕事は祈りの変わりにならない。先ず祈り、その精神が務めに流れる時、仕事は祈りになる。

〔たえず祈りなさい〕

〔誘惑に負けないように〕

朝、夕の祈り、食前・食後の祈り。お告げの祈り。ロザリオ、イエスと親しみ信仰を深める。

言葉の断食、考えの断食、テレビの断食。「ミサ」は福音の祈りである。

日曜のミサをわけもなく怠るならば大罪。もしそうしたら拝領の前、ミサの前に告解する。

日常生活が祈りと一つになるように。夕方 感謝! 感謝に敏感になる。

〔祈り方〕

すでにいただいた心算で感謝しながら祈る。

祈ることは、神の心は愛であるから……、「トウトガナシ」 尊い愛のみあるし

ゼローム神父様、沢山のご指導有難うございました。

酒の中に真理あり

●松永 正男〔奄美修道院長〕

「明日、釣りに行くか。道具準備しておくから……」昭和50年代、笠利地区の教会を担当していた私のもとへ月曜日の夕方になると、名瀬修道院のラファエル森井実修道士から電話での問い合わせがあった。「うん、行く。道具頼むね。そしてどこで、何を釣る……」といった調子で約束をしていた。

毎週の火曜日と水曜日は、奄美の各教会で働いている神父たちが名瀬の修道院へ集まる日であった。それぞれの教会で働く司祭たちは、キリストが12人の弟子たちを宣教活動に送ります。が、弟子たちはその活動報告にキリストのもとに戻ったように、週に一度修道院に集まり、休息と報告をしてからの計画についての話し合いのため集まっていたのです。

そして当日、昼食後ある日はオート

バイに二人乗りし、ある日は自家用車でほとんど整備されていない草が伸び放題の道なき道を走って釣りのできる海へ行ったものでした。昼食後から夕方までの限られた時間帯のためにほとんど成果は得られなかったが、その後のことも彼は用意周到に計画していたのでした。

「夕食後、大熊にいくぞ」と今度は彼の運転する車で大熊の信徒の家をおとす。そこには、ちゃんと刺身や黒糖焼酎が用意されていた。「神父さんたちが釣りにいってもたいした成果はない」と、さきを読まれていて準備されていたのだ。たらふく食べて、たらふく飲んだあとの修道院への戻りはタクシーを利用した。現在、多くの人を利用する代行運転はなかった時代である。そして水曜日の午後、私が笠利教会へ戻るときラファエルさんは車を取りに行くために大熊まで一緒に行った。「これからまた飲んでまた車を残して帰るんじゃないよね」と念を押したこともしばしばあった。

酒を飲むと愉快になる人もいるが、反対の人もいる。ラファエルさんは後者のほうだったような気がする。私が同年代であったためかも知れないが、気になって話していることや悩んでいるようなことを話してくれたし、あるときは涙を流し、そして拭きながら話されたこともある。そして、私が奄美から次

の任地へと派遣される出発の日のひとは、こちらもほろりとした。「おまえといたこの数年間がいちばん楽しかった!」と。

■特別寄稿

いつもロザリオと共に

●栗栖 二郎 (マリア教会)

私と、ゼローム神父様との出会いは1955年。知り合いの伝道士の泉豊光さんが、奄美の管区長をされていたゼローム神父様に紹介してください、未信者だった私が、教会の図書館で勤めるようになったことがきっかけです。ここで、神父様と出逢い洗礼を受けました。

ある台風の日、私が運転する車で医師会病院に行った際、待っている私の車を見つられ先にも帰られてしまいました。教会から電話があり、私が帰っていない事を知った神父様は、医師会病院の近くの道路が、がけ崩れをしていたこともあり、ものすごく心配されたそうです。教会に立ち寄り荷物を届けると「ごめんさい」と、大きな体でしょんぼりしていた姿が忘れられません。

西仲勝教会、大笠利教会など車で移動されている時は、いつもロザリオを唱えられ、貧しい人、病める人の為に働かれていたゼローム神父様のご冥福をお祈りいたします。

ラファエルさんは、朗らかで誰とも気さくに話をする好青年でした。

「二郎兄と一晩ゆっくりお酒が飲みたいね」と言われていたけれど、実現できなかったことがずっと心に残っています。

ゼローム神父様の思い出

●池田 尚志 (御心教会)

私が、36才ころ鹿児島県のN食品会社に働いていて、お盆の休みや正月の休みの時、いつも一週間程の休みをもらって、故郷の奄美に帰るのを楽しんでいます。

鹿児島での忙しい仕事と、緊張の生活で疲れた身体と心を、奄美の海、山、空の自然の息吹と人の温かさが、私を癒してくれました。そして、鹿児島での仕事にぶつかっていく力をもらうことができました。

私はライフワークとして、ずっと油絵や水彩画を描いてきました。ある帰省した折、名瀬の町が見わたせる「おがみ山」に登って水彩でスケッチをしてから、山を下り登り口のところで、ぱったりゼローム神父様と出会いました。その時、ゼローム神父様から「尚志、今なにをしていますか?」と聞われました。私は、「絵を描いています」と答えました。絵を描いていくことは、「修道士の道と同じだから頑張りは

なさい!」と励まして下さいました。

ゼローム神父様のこの言葉は、私が絵を描いていく上で、私を支える大きな力となっています。ゼローム神父様は、心が自由で、相手の立場になって考えられる人であったなと思います。

私は今までの出会いのなかで、このような言葉をすぐに話された人にもあまり出会ったことがありません。ゼローム神父様は包容力と温かさにあふれた神父様であったと、今でもこの出会いの場面を懐かし思い出します。

奄美と司祭と信仰

パウロ 泊 秀信 (大牟田市)

戦後の日本の経済は、生活物資が不足し、殆どの国民が貧しかった。奄美大島は、1946〜1953年(昭和21〜28年)までの8年間、日本本土から切り離され、アメリカ軍政府が支配する占領行政が行われた。アメリカ発の軍票が日本円の変わりに使用された。名瀬市の山手に軍政府があり、鉄条網で囲われ、入口には巨大な黒人の守衛が二人立っていた。初めて見る黒人は怖かった。友達と見について、必死に逃げ帰ったものだ。

1950年朝鮮戦争が起こり、その頃、奄美大島は日本復帰運動が盛んに行われ、小学生もそれに駆り出された。その運動が衰り、私が4年生の

1953年(昭和28年)の時に日本に復帰した。占領政策は市民の生活だけではなかった。カトリック教会にも大きな変化をもたらした。コンヴェントアール・聖フランシスコ会のアメリカ人神父がやってきた。アメリカ人の神父は色々な仕事のプロでもあった。医師、建築家、教師、歌手、福祉、又その姿も身長が高く、靴の大きさにはびっくりしたものだ。初めて見る外国人は脅威と興味の的であった。

ゼローム神父はアメリカの西部劇の重鎮ジョンウエイに似ていた。ルカ神父はカークダグラスが持つ切れ味のいいユーモアの持ち主だった。ユゼビウス神父はユルプリンナーの指導力のある勇士を連想させた。ヴィンセント神父はギターを弾いて、カントリーを歌うんだ。アメリカの西部開拓史を彷彿させたね。魅力溢れる神父群だった。明るく、鷹揚、分け隔てない人柄で、気風もよかった。アメリカの新しい風と夢を、少年達に拓き、すべての島民もアメリカ文化と神父の人柄に憧れていた。

診療所、建築会社、カテキスタ養成学校、福祉施設を教会が運営しだした。診療所は医師免許を持つ神父が担当し、いつもいっぱい盛況。カテキスタ養成学校は、カトリックの教えを専門的に学ぶ養成所である。カテキスタは、カトリックの教えに精通し、神

父を助け、行動を共にし、その教えを広めていった。もちろん給料つきである。建築会社は神父が責任者で、私の父もしばらくそこに勤め、小さな教会をあちこちに建設して回っていた。今でもその教会は残っている。

アメリカは、占領地域の復興と人道的支援のため、「ガリオア・エロア資金」を準備した。奄美もその恩恵を受けたのだろう。教会の倉庫には、あらゆる物資が豊富であった。教会はそれゆえに島民に配布した。島民は空腹だった。神父をみたら「ハングリー」と言え、間違っても「ゴ・ホーム・ヤンキー」とは言うなと教えられた。食料品が山積されている倉庫の前に母が私を連れていき「ねえ、秀ちゃん、信者になろう。信者になったら、腹いっぱい食べることが出来るよ。」と誘われた。4年生の時に洗礼を受けた。その前にプロテスタントの教会にも行って、聖書の話聞き、讃美歌を歌うと、終わったら必ずお菓子が配られた。それ目当てにセツセツと通ったものだ。

ろうか。私はついていく、運がいい。未熟な私を見えない手が支えてくれている。そういうことが無数にある。私のように、食料めあてのエセ信者、島民ヤカラが多くいたことは、否めない。そのころ、貧しかった村は今でも信者が多い。でもその村から、たくさんの司祭、シスターが誕生した。よく娘から言われる「お父さん、なんでもおいしい、おいしいと食べるけど、いったい何が一番おいしいの。何がまづいの、お父さんの味音痴」戦後70年経つのに、空腹病に未だに取りつかれて、治っていないのだろう。舌は正直である。私が尊敬する大学の師、心理学教授霜山先生は、「人は舌でつくられる」と言い切る。私の場合、信者になったのは、食べ物につられてなったのだから、あながち間違いではなさそうだが、でも、いまだに本物になれないもどかしさと、アメリカに対する卑屈さは癒しようがない。

神父とカテキサスタ達は、4輪駆動のジープに乗って、島全体を駆け廻った。当時は各家庭に自転車さえないころ、舗装されていない泥だらけの道ばこ道を、急な上り坂もジープは、ぐんぐん上るんだ。驚嘆だったね。アメリカを恐るべし。驚愕していた。アメリカの力を目の当たりにして、飛躍的に、爆発したように、カトリック信者は増えた。教会は溢れるほど、人だかりで、クリスマス時には、ホールを貸し切り、各自の出し物で、神父と島民が一体となって、お祝いした。大騒ぎで、楽しかったよ。この難儀を乗り越えようという熱気が燃え盛るようだった。ロスケ(母はいつもそう言っていた)はすべてを奪い、壊し、破壊を撒き散らかしたが、ヤンキーは、食べ物を、働きぐちを、カトリックの隣人愛を実践し、広めた。島民はそれを実感し、喜んで共鳴した。私も同じだった。でもアメリカに対しての卑屈さと「食」へのいやしきは、いまだに、消えることがない。

ジェローム神父、ルカ神父、ユゼビウス神父、ヴィンセント神父様方は、大きなお土産を島民に置いていったのだ。その志は、今でも生きている。

ラファエルさん

安田 孝春 (マリア教会)

奄美大島は、未だアメリカのトニオ管区であった。

ある日、ラファエルさん(森井実修道士)から招集がかかった。ぶどう酒の瓶詰め作業を行うとの事であった。そういえば、2週間ほど前に外国から木樽が届き、栓を上にして横たえる作業をしていたのだ。そろそろカスが沈殿した頃なので上澄みの方をビール瓶

に詰めて、修道院の地下倉庫に保存するとの事である。

作業は、1センチメートルたらずの透明ビニール管で、樽からぶどう酒を吸い出し瓶に移すのだが、少々は口に入ってしまう。ラファエルさんは、それはしょうがないのだと言う。「とってもおいしいだろう?」「スペインから毎年送られてくるのだけど、旨いぶどう酒だろう?」どうも役得を分け与えてくれていた様なのだ。庶民の一員である私は、今日に至るまであの様なおいしいぶどう酒に巡り会えていない。「次も呼ぶからな!」との約束にもかかわらず、ラファエルさんは天国に旅立ってしまった。もう35年にもなる。

宣教師たちの思い出

池田 健一 (関東同窓会会長)

昭和29年、奄美の宣教師がカプチン会からコンベンツアル会に委譲され、ゼローム神父様が初代奄美地区総代理に就任した。当時私は7才、カプチン会の髭の神父の記憶は無く、その後のゼローム神父、ルカ、リチャード、ユゼビウス各神父、タデオ修道士……、懐かしく思い出される。特に、ゼローム神父とのエピソードは、殆どの会員が取り上げると思うが、敢て記させて戴きたい。

平成元年、私の父は姫路聖マリア病

院で帰天した。同じく入院療養中だった、ゼローム神父により塗油の秘跡、翌日の葬儀ミサ、そして体調思わしくない中、納の式まで司式してください、信者としてこの上ないお恵み、感謝だった。

週れば、明治24年大晦日、奄美最初のカトリック宣教師フエリエ神父が来島、布教が始まった。翌年7月、私の祖父の弟池田藤吉は大人で奄美初の受洗者となり、その後長崎の伝導学校に選拔され卒業後は奄美各地で伝道士として奉仕した。そして古仁屋（陸軍要塞地）にて殉教的苦難の生涯を終えた。藤吉の息子池田勇神父は昭和20年、フィリピン・マニラで教会保護挺身の末、日本軍に背中から撃たれ殉死している。長男池田純彦は、全校生徒での高千穂神社参拝をカトリック信者として拒否した為退学処分になったが、米川神父の計らいで海星学園に編入、大卒卒業後聖フランシスコ学院で教鞭を取り、ビンセンシオ会員として永井博士たちと共に病人や貧しい人たちに奉仕していた。

「隣人を愛しなさい。敵をも愛しなさい」キリストは単純なことを示した。すべての人を分け隔てなく愛するあなたたい教えである。歴史を眺めてみた時、信仰の遺産が代々受け継がれて来ているが果たして今の私は？
今回、原稿の依頼を受け先祖や歴代

宣教師たちに思いを馳せる事より又信仰を新たにされる良い機会になりました。

奄美セミナリ会生みの親

田下 幸次「大崎町野方」

ラファエル森井実修道士35年忌に寄せて思い出を書かせていただきます。昭和38年にゼローム神父様の働きで数名の小学校卒業生が、長崎の聖母の騎士学園に入学する事になりました。私もその内の一人です。当時は、船も小さく船内は臭く殆どの人が船酔いでもどしていました。鹿児島からは汽車ですが当時は石炭車で、長崎に着いたときは顔や耳は黒い煤で互いに笑い合ったものです。

この時から、ラファエルさんとの関わりが始まりましたが、残念ながら目的達成とはならず、6年後に奄美へ帰り社会人として仕事をしていく中で、島には多くの先輩たちがいる事がわかり、当時名瀬の修道院にいたラファエルさんの声掛けで「セミナリ会」を作ったらという話になり、修道院の隣にあつた離れで度々集まり酒を飲み語り合い、会を立ち上げる事ができました。教会との関わりはもろろんですが、運動好きが多く、当時名瀬では、バレーボールや野球の社会人大会が盛んでしたので、すぐにセミナリの名を入れたユニホームを作り、各大会でセ

ミナリの名を轟かせました。中にはセミナリをカミナリと言う対戦相手もいました。ラファエルさんは、マネージャーとしていつも率先して、みんなをまとめて大活躍しました。

しかし、時の流れには逆らえずセミナリとしての活動も自然消滅しましたが、13年前に私の同級生3名と高校時代バレーを指導していた浦川先生のご家族と一緒に来島されましたので、島に居る聖母の騎士出身者（一般生も含め）へ声掛けし歓迎会をしました。その時、同級生の聖母の騎士同窓会長 窄口氏から島でも聖母の騎士同窓会を立ち上げたらとの話があり、聖母の騎士同窓会奄美支部として発足し活動しています。3年前に10周年を記念して、長崎での総会出席、五島巡礼の旅を会員有志で行けたのも、五島の2名の同窓生のお陰だと感謝しています。

会の名称は変わりましたが、発足当時の気持ちは今も一緒だと思います。これからも「セミナリ」の精神を忘れず、ゼローム神父様の教え、ラファエル修道士の思いを大切にしていきたいと思えます。

特別寄稿

ありがとっ！ゼローム神父さま

林 常広（聖心教会）

私には、祖母のクニ以外に面会者はなく、孤独でとても寂しい病院生活で

した。もともとカトリック信者ではなかったのです。

今から21年前、奄美病院（精神科）で、孫とお爺さんくらい離れた見知らぬ米国の神父様が、レジオマリエの方々と「ウガミンシヨウラン、元氣ンムンニャ？」（こんにちは、お元気でしようか？）という突然の挨拶が、ゼローム神父様との出会いでした。それから、ゼローム神父様が面会に来る日、首を長くして待っていました。人差し指を横に振りながら、片目で軽くウイंकを交えて笑顔で「ハヤシ、それはそうじゃないネ！」と、ゼローム神父様独特のポーズや面影が今でも目に映っています。

ある時、ゼローム神父様が「ハヤシ、あなたはここに居るべきではないネ！」「退院したら、聖心教会で洗礼を受けて朗読をなさい」と、有難い言葉を戴きました。

そして退院後、本当に聖心教会へと行き、大野神父や松本さんにお会いして、（主の祈り）や聖書の勉強をしましたが、私には（主の祈り）が覚えられませんでした。勉強が苦手だったので、勉強会の時間は夜8時だったのですが、私にとって夜8時は精神科の薬を飲まないといけないので、大野神父さまに時間の調整をお願いしました。一年間必ず日曜日のミサに与りますという約束を実行しました。そしたら

念願が叶いました。それで、洗礼を受けると同時にミサで朗読を務めさせてもらいました。そして後、結婚もできたのです。私たち夫婦二人は精神安定剤を飲んでいたので、子供はしばらくできませんでしたが、ドクターに相談しました。どうしても子供が欲しかった私たちに、ドクターが「二人とも、かなり調子が崩れますが、それで良ければお薬を調整しましょう」と、薬は減らされました。本当に二人とも調子が悪くなったところで子供は出来ました。男の子です。それも鹿児島大学病院で産まれました。《その後奥様は帰天されました》

子供は小学4年生になりました。現在は、白百合寮(養護施設)にいます。私も寂しいですが、どうしても病気が邪魔をするのです。今でも私たち親子を救ってくれて有難いです。

ゼローム神父様 トウトウガナシ！
そして永遠の安息がありますように。
《とうとがなし(尊々加那志)は奄美の方言。有難うございます、のこと》

■特別寄稿

主の平和

ゼローム神父様との出会い

木田 昭代 (マリア教会)

昭和27年私は小学5年生、奄美はアメリカの信託統治下にあり、苦しい自給自足の時代でした。戦後で外国の方

を見るのは、私にとっては怖くて隠れて見ていました。祖国を離れ、奄美大島の山中の小さな芦花部集落に宣教師として着任された方がゼローム神父様でした。交通の不便な時代、名瀬に出で行かれるには、細い山道を歩き続け、途中大熊教会でひと休みされて町に着く頃は夕方になり、一日がかりの移動で大変ご苦労をなされました。

昭和28年12月25日、奄美群島が日本復帰しました。提灯行列をして島民たちは本土との交流が自由になったことを喜びました。その頃、ゼローム神父様のご指導のもと、若い人たちが聖母の騎士学園や修道院へと島を離れる時代が始まりました。

戦後の奄美のカトリック教の宣教は、特にゼローム神父様の大きな尽力の賜物で、感謝と感銘を受けました。まるで、イエズス様が現れたような気持ちになりました。マリア教会に着任された当時、足が痛くて(ハギクワアヌ、ヤディー)とおっしゃりながら日々病院訪問に専念されておられました。新しく教会が立て替えられ献堂式の後、がん治療のために、兵庫県の病院に入院されました。お見舞いに行けなかった私は、神父様の大好きな島で採れたトマトと焼き芋を送りました。「私は今、食えることが出来ません。代わりに私の世話をしているスタッフの方に食べていただきます。ありがと

う、ありがとう！」と、お喜びの電話があり、これが最後の会話になりました。2週間後、神父様は天国へと旅立たれました。

1992年に外国人初の名瀬市名誉市民に選ばれた神父様の市民葬(奄美文化センター・1500人収容)が行われ、多くの島民が集い、偉大な功績を残された神父様に感謝の祈りをお捧げ致しました。神父様からいただいた「ミサに与るのは心のリハビリ、体のリハビリになります。教会を忘れないでネ！」この言葉を胸に刻み、歳を重ねていく自分に言い聞かせてミサにあずかる毎日です。「神に感謝！」

大切にしたい信仰の遺産

田下三佐男 (奄美支部事務局)

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(長崎、熊本県)について、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の諮問機関、国際記念物遺跡会議(イコモス)が「登録が適当」とユネスコに勧告したと発表した。長崎と奄美を簡単に比較など出来ないが、奄美にも厳しい迫害を乗り越えた信仰の歴史がある。

同窓会数名の信仰の灯に油を注いでみた。しっかりと心に残る思い出の中から、今これだけは是非とも語ってみたいと、予想以上の反応があり取り

まとめた。みんな本当に(神ってる!)……、いや、聖霊降臨だ。

いつも同窓会主催のミサに参加される信者さんにも、(特別寄稿)の声掛けをしてみました。特に、林くんには気軽に実名報道の許可を得ることができました。暗闇から救い出したゼローム神父様の働きが凄い！今、彼は苦しい中を(光の子)として信仰の歩みが続けている。目の前で奇跡が起こっている。

青葉若葉の聖母月も終わりに近づいた。夕方、教会ではロザリオがあります。いつも同じ時間に来て、同じ席に座り祈る、年寄りの丸まった背中、白いペール姿からは(本当の信仰)のあり方が垣間見える。

「皆さんが知っている普通の教会の聖人以外にも、神様だけがご存知の聖人が天国には居ますヨ！」と、いたる所で出会う人々に優しく語り続けられた、ゼローム神父様が居ました。「オーい、キミたちだけ行くのか？ボクも連れて行かんばー！」と、二次会まで一緒に盛り上がり、サルベレジナールを共に大合唱した、ラファエルさんが居ました。

多くの宣教師・修道士たちを通して、この島で示された(主の呼びかけ)、目には見えない尊い活動とご苦勞を想い、いつまでも忘れず大切にしていきたい。賛美と感謝！

アメリカ占領地(奄美群島)のカトリック教会開拓史を担った 宣教師・修道士たち

『奄美大島宣教25年史・コンベンツアル聖フランシス修道会』奄美大島管区本部コト押川壽夫管区長編1977年から一部転載



リチャード神父



マリオン神父



ユゼビウス神父



ゼローム神父



ルカ神父



アルベルト修道士



タデオ修道士



ラファエル修道士



ルーシン神父



ビンセント神父

イギリス便り イギリスでの挑戦 2018

奄美支部 励倫太郎



同窓会の皆様お久しぶりです。北ウェールズから、最近の英国に関する情報をお伝えしたいと思います。

去年の後半から今年の初めに、引越を2度も経験したり、職場では、以前から働いている精神科の他にも、リユーマチ科での仕事が始まり、新しい専門の勉強に迫られたりと忙しい日々が続きました。しかし、最近になってやっと少し落ち着ける様になりました。今年の9月には、長男が就学前教育用の学校に通う歳にもなり、子供が成長していく早さにとても驚いています。

今年のおめでたいニュースは、ハリー英王子と米女優メガン・マークルさんがウィンザー城の聖ジョージ礼拝堂で結婚したことです。このイベントは英国で色々なメディアが取り上げ、結婚式はテレビ中継されていました。今年、W杯がロシアで開催されています。イングランドでは、「今年こそは良い成績を残すのでは」と期待されています。一方、私の住んでいるウェールズは、残念ながら出場権を得ることが出来ず、私の周りのウェール

ズ人の知り合いは、イングランド以外のチームの応援するようです。私は、職場では日本を応援するよう同僚にお願いしています。

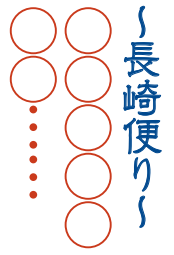
しかし、イギリスとロシアの国際関係は、今年になってとても悪化しました。それは今年、イギリスの田舎の町でのこと、亡命していた元スパイのロシア人男性とその娘さんが、神経剤によって意識を失っているのがショッピングセンターで見つかり、その現場に駆けつけた警察官も具合を悪くし入院するという事件が起こりました。そして英国政府が、ロシア政府の関与を強く主張しました。英国のメイ首相は、使用された神経剤はロシア製であるとも発表しましたが、一方でロシア政府は、強くこれを否定し、英国政府に対してその証拠をロシア側に提供するべきであると要求しました。

その他のニュースとしては、未だにBREXITの話が頻繁にニュースに出てきます。特に、去年から今年にかけて離脱後の北アイルランドとアイルランドの国境に関して色々な問題が浮き彫りになりました。一度は解決され次の段階へ進む様になりかけましたが、去年の総選挙で、保守党との連立政権したDUP(民主

統一党・北アイルランドの地域政党)の猛反対があり、この問題は未だに解決されていません。

去年の特に印象に残った事件は、グランフェルタワの火災でした。約79名死者が出、158世帯が住居を無くしました。新聞によっては、死者の数は100名以上にも達したと報道されました。火災の火種は、あるブランドの冷蔵庫だと指摘されました。この火災では、短時間に建物全体に火が回ったため、多くの犠牲者が逃げ遅れました。その主な原因になったのはタワの外装材と断熱材ではないかと報道され、その後の調査では、タワの外装材と断熱材は、基準値に達していなかったことが発表されました。その他、火事の前に火災対策の不備を住民が訴えていたにもかかわらず、地方行政が何の対策もとっていなかったことが、メディアの調査で発覚し発表されました。

英国のニュースでよく報道されるのは、ヨーロッパ、アメリカ、中国、そして中東問題です。私にとって残念なことです。日本の話題が出てくることはあまりありません。皆さんがもうご承知のことを書いてしまったのであれば申し訳ございません。そして、辛抱強く読んで頂いた方、ありがとうございます。それでは、同窓会の皆様のご健康お祈りします。



長崎文部 ○○○○

平成30年(2018年)1月29日(月曜日) 長崎新聞 朝刊

「アウシュビッツの聖人」コルベ神父の語り部

小崎さんにポーランド勲章

「愛と平和」伝える

昭和初期の長崎で布教したカトリックの聖人で、ポーランド出身のコルベ神父の功績を伝える「語り部」として長年活動してきた聖母の騎士修道院(長崎市本河内2丁目)の修道士、小崎登明さん(89)に28日、同国の外務大臣名誉勲章「ベネ・メリト」が授与された。同国側によると、日本人の受章は2人目。小崎さんは「夢のような気持ち」と喜びをかみしめた。

国内2人目の受章

小崎さんは17歳の時、爆心地から2・3キロの三菱兵器修理工場で作業中に被爆。唯一の肉親だった母が行方不明になり、原爆孤児として聖母の騎士修道院に身を寄せた。

同修道院で知ったのは、設立者のコルベ神父のことだった。神父は1930年から61年、ナチス・ドイツがユダヤ人を大量虐殺したポーランド

ドのアウシュビッツ強制収容所で、死刑宣告された妻子ある男性の身代わりを申し出て殺害された。

小崎さんは長年、コルベ神父の偉業や自らの被爆体験を修学旅行生らに講話。ポーランドに何度も渡航し、神父の足跡を訪ね、神父に助けられた男性の証言を聞き取った。近年まで同修道院の聖コルベ記念館で来館者の案内も続けていた。

ベネ・メリト勲章は、国際社会でポーランドの地位向上に貢献した人物に贈られている。同国側は、小崎さんの活動が日本とポーランドの絆を強めたと高く評価した。

この日は、ポーランドのヤン・シエジチャク外務副大臣が長崎市平野町の長崎原爆資料館を訪ね、小崎さんに勲章を授けた。小崎さんは、神父に助けられた男性が「神父に『ありがとう』と言えなかった」と泣きながら後悔していたエピソードを紹介。講話を通し、「大切な人に『ありがとう』と伝えることの大切さを訴えてきた」と振り返った。コルベ神父は、戦争が生んだ人間の暗い闇の中に「愛」という希望の灯をともした。小崎さんは「愛と平和を買い手がいると若い人たちに伝えたい」と願っていた。



シエジチャク副大臣(中右)の場で勲章を贈る小崎さん(左)

長崎原爆資料館

(宮本宗幸)

崎濱宏美神父様

司祭叙階50周年 お祝いメッセージ



●同窓会メンバーより

●司祭叙階50周年、心からお祝い申し上げます。一言で50周年と申しますが、その年月は、長く大変な人生であった事とご推察いたします。特に、長きにわたる学園長の職は、ご苦勞の連続ではなかったでしょうか。そのバイタリテイには感服するばかりです。今後ともご指導よろしくお願い致します。

同窓会々長 **赤本喜代次**

●雨にも負けず、誘惑にも負けず、司祭叙階50周年。おめでとうございませう。これからも元気で長生きしてください。

同窓会理事 **窄口富行**

●司祭叙階50周年を迎えられたことを心やりお慶び申し上げます。これまでの活躍に敬意を表し感謝するとともに、これからは私たちを導いてくださるようお願いいたします。

同窓会理事 **大石 諭**

●オメデトウではなく、ご苦勞様でした。と申し上げたい。慌てて天国に行かないでください。この世の仕事がま

だ山積みしています。まずはキンナゴで乾杯といきましょう。

同窓会顧問 **木場田友次**

●叙階50周年金祝おめでとうございませう。今後ともお元気で、ご活躍を祈念いたします。

同窓会奄美支部長 **近藤 芳弥**

●謹んで金祝のお祝いを申し上げます。益々ご健康で活躍されますよう祈念いたします。

英国 **励 倫太郎**

●高等学校関係者より

●厳しい暑さの残る荒野で、青々とした葉に、鮮やかな黄色の花を咲かせる石路。その一重の凜とした姿に崎濱校長先生が重なります。どうか、お元気で、これからは荒野に生きる私たちを導いてください。

田代 **知二**

●おめでとうございませう。まだまだ現役で頑張ってください。

飯田 **友広**

●おめでとうございませう。これまで多くの苦勞があったことと思います。リセットして、これからもお導きください。

熊川 **武俊**

●おめでとうございませう。お体には十分気をつけて、これからも学園発展のために、益々のご活躍をお祈りいたします。

小島 **正人**

●司祭叙階50周年おめでとうございませう。これまで歩んでこられた往還を、これからも、健康にご留意されて、お進み下さい。

小森 **啓二**

●司祭叙階50周年おめでとうございませう。今後もお元気で益々のご活躍を心よりお祈りしております。

小村 **淑江**

●50周年おめでとうございませう。長い年月をかけて、一歩ずつ歩みを進めて来られた道程。これからも私たちを先頭で導いてください。

千住 **由真子**

●金祝おめでとうございませう。長い間子供たちのため、そして私たち信徒のために活動していただき、ありがとうございます。これからもご健康で、神様のためにご奉仕される事をお祈りしています。

廣島 **誠一郎**

●いつも朗らかな笑顔やお声かけ、ありがとうございます。そして司祭叙階50周年おめでとうございませう。これからも楽しいお話、お聞かせください。よろしくお祈りします。

堀尾 **恵子**

●司祭叙階50周年おめでとうございませう。お体を大切にされて。これからも見守っていただければと思います。ご無理のないように。

前田 **千明**

●司祭叙階50周年おめでとうございませう。

馬渡 **知子**

●司祭叙階50周年おめでとうございませう。ご縁があって、今年から先生の下で教鞭を執る事ができて嬉しく思っております。今後ともよろしくお祈りいたします。

満田 **勝也**

●司祭次回50周年おめでとうございませう。50年の司祭生活を支え続けた神様が、これからの司祭としての活動もま

ます実り豊かなものとなりますように祈っております。

宮城 **信愛**

●司祭叙階50周年おめでとうございませう。今後、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

宮原 **三紀子**

●本河内幼稚園関係者より

●延長神父様、50周年おめでとうございませう。いつも子供たちのことを温かく見守って下さり、ありがとうございます。

小川 **愛子**

●司祭50周年、おめでとうございませう。お身体に気を付けられ、これからも子供たちにたくさんのお愛を届けてください。

高田 **恵**

●50周年おめでとうございませう。子ども達、そして職員にもあたたかい愛情をもって接して下さい、いつも感謝しています。

西崎 **結乃**

●司祭叙階50周年おめでとうございませう。これからは益々お元気で、思いやりのある子どもを育て導いてください。

中山 **和美**

●司祭叙階50周年おめでとうございませう。いつも子供たちや保護者、職員に温かく楽しいお話をして下さい、ありがとうございます。

松尾 **由紀**

●司祭叙階50周年おめでとうございませう。これからは、園児・職員。職員一同、延長神父様と共に笑顔いっぱい園生活を過ごせますように……。

吉武 **幸子**



金祝・銀祝のお祝い。本河内教会にて(2017年11月)

●東長崎幼稚園関係者より

●50周年おめでとうございます。

井手 彩陽

●園長先生の温かさがあったので私は今も娘と一緒に大好きな園で働く事ができています。沢山の感謝とお祝いの気持ちを含めて……。

犬塚 ふみ

●崎濱神父様、50周年おめでとうございます。これからは頑張って下さい。

笹山 倫子

●崎濱神父様、50周年おめでとうございます。これからも神父様の上に神様のお恵みが沢山ありますように。

鈴田奈々子

●50周年おめでとうございます。これからも崎濱神父様の優しさで私たちを見守って下さいね。

平 睦子

●司祭叙階50周年おめでとうございます。いつも温かいお心遣いありがとうございます。

●ご指導よろしくお願ひします。

只熊さつき

●いつも優しい笑顔で支えて下さり感謝しています。これからも、親子共々お世話になります。おめでとうございます。

卜部紗智子

●いつも温かく、大丈夫だよと、笑顔で私の背中を押してくださる神父様。優しさにいつも感謝しております。おめでとうございます。

永田 恵

●司祭叙階50周年、おめでとうございます。いつも笑顔で子ども達、職員、幼稚園を見守って下さり、ありがとうございます。

仲宋根有紀

●50周年おめでとうございます。これからも子ども達を温かく、優しい笑顔で、いつまでも見守り続けて下さい。

中元 里美

●叙階50周年おめでとうございます。これからもお体に気を付けて、いつまでもお元気でいてください。

中村ちひろ

●司祭叙階50周年おめでとうございます。これからの活躍を期待しております。

濱浦 殊衣

●50周年おめでとうございます。いつも子ども達や私たち職員に掛けてくださる温かいお言葉、素敵なお笑顔が大好きです。

三浦 彩

●50周年おめでとうございます。これからもお体に気をつけて、素敵な日々をお過ごしください。

吉田 彩乃

30年度 お知らせ
総会・懇親会
10月27日 土 開催

会場 コルベ記念館ホール
御ミサ 16時00分～(コルベ志願院)
総会 17時00分～
親睦会 18時00分～ **会費 3,000円**
{修道会会員は招待}

参加お申し込みをされる方は、別紙申込用紙をFAXか郵送していただくか、下記メールアドレス(熊川)に御連絡下さい。
FAX: 095-823-4759
Eメール: toshi_dominic_kumagawa@yahoo.co.jp

聖母の騎士学園同窓会 (本部役員名簿)			
会長	赤本喜代次		
副会長	窄口 富行	顧問	崎濱 宏美
	大石 諭		木場田友次
書記	小島 正人	会計監査	松下 昭征
事務局	熊川 武俊	会計	赤尾 城司
理事	里脇岩男/竹内松雄/松本 修		
	滝元 敦/川村隆公/峰 徹		
	宮城 信愛		

平成29年度 決算報告書

摘要	収入	支出	残高
繰越金(郵貯)	516,964		
繰越金(現金)	331,474		
会費(総会時含む)	219,000		
寄付(総会時含む)	152,000		
総会時の懇親会会費	37,000		
総会時の懇親会費用		33,218	
総会時のミサ代		10,000	
校長先生の金祝い		10,000	
同窓会入会金	60,000		
学園援助金+花代		65,000	
卒業記念品代		20,000	
「英彦の泉」印刷代		224,640	
振込用紙印刷代		3,102	
奨学金		60,000	
会報送付		64,370	
通信費		2,332	
合計	1,316,438	492,662	823,776

平成30年度 予算計画書

摘要	収入	支出	残高
繰越金	823,776		
年会費	220,000		
寄付	100,000		
同窓会入会金	42,000		
会議費		5,000	
懇親会支出		34,000	
卒業記念品代		14,000	
「英彦の泉」印刷代		230,000	
会報送料		65,000	
奨学金		60,000	
通信費		3,000	
雑費		20,000	
合計	1,185,776	431,000	754,776



●同窓会奨学生

今年の採用は1名です。同窓会奨学金採用基準は、「成績ではなく、家庭の経済状況を考慮し、特に、他の生徒の模範となる者」です。年間6万円を支給し、返済の義務はありません。

●30年度学年理事

杉原雄太君。現在、公務員を目指し勉強中です。

●御寄付頂いた方(敬称略)

内藤 淳、高野俊満、山口進、松下昭征、白濱明、里脇岩男、吉田忠巧、木場田友次

●ミニだより

▼お世話になりました。少しですがお役に立てればと思います。

奈良市 吉田忠巧

▼元気に頑張っています。

長崎市 境 航平

▼楽しみにしています。いつも、英彦の泉ありがとうございます。

鎌倉市 平松壽護

▼皆様のご協力、いつもありがとうございます。これからもよろしくお願います。これからもよろしくお願います。

長崎市 赤本喜代次

▼英彦の泉、楽しく読ませていただ

ております。皆様のご健康をお祈りいたします。

東京都 阿部正人

▼いつもありがとうございます。

瀬戸市 桜本好美

▼英彦の泉、楽しく拝読させてもらっています。次号楽しみにしています。

池田市 磯辺波男

▼幹事の皆様ありがとうございます。まとめて会費を払い込みいたします。7月から週3回大阪です。68歳で身体は大丈夫かなあといいながら、来年はリタイアを目指しています。

市川市 山口 進

▼毎年、「英彦の泉」をお送り下さり、有難うございました。昨年は、本人が受け取り、懐かしく拝読したと存じます。今年1月、帰天いたしました。長らくお世話になり有難うございました。感謝。

東京都 米林拓道(母)

▼2017年8月25日、軍艦島ガイド1200回の節目の日でした。祝い金として会社から1万円頂きましたので、同窓会に寄付いたします。80歳になっても元気に働く事が出来て、感謝です。

長崎市 木場田友次

▼毎日暑かった夏も終わり、ホットしています。厳しい夏を乗り越えたのだから、もう、ひと安心。皆様もお元気ですか。いつもお世話下さいます。有り難うございます。

大牟田市 泊 秀信

生徒募集

■一般生

- ★1学年1クラスの少人数教育。
- ★学力が高い生徒のために進学コースを設置。実力をアップして上級学校への進学を目指します。

- 1 年生:「センター試験対策コース」
- 2・3年生:「国公立大学進学コース」

■校内特待生制度

- ★成績優秀な生徒には特待生制度により奨励金を支給しています。



■神学生(聖コルベ志願院 ☎095-828-0541)

- ★コンベンツアル聖フランシスコ修道会の司祭を目指します。祈りに親しむ生活を通して神様に出会い、司祭になるための知識・教養を身につけます。
- ★高校卒業後は、まずは一般の大学に進学し、今の時代に必要とする学問を学んだ後に、上智大学神学部編入し、司祭になるための準備を続けます。
- ★神学生としての授業料・生活費は修道会が負担します。

オープンスクールの開催します。
10月13日 土曜日
 お気軽にご来校ください。

※学校見学会は以下の日程で行います。
9月29日、11月17日、12月15日
 (全て土曜日です)

聖母の騎士高等学校

〒850-0012 長崎市本河内2-2-2 ☎095-823-4523
 ホームページ <http://www.seibonokishi-2008.jp/>

編集後記



西日本豪雨。もう36年前になりますが、昭和57年の長崎大水害を思い出させるような雨量と被害でした。当時の被害を調べてみますと、長崎市の3時間の雨量が313ミリメートル。それによる土砂崩れや川の氾濫などで死者・行方不明者が299名でした。母校も幼稚園との間の幅わずか2メートルほどの川が溢れ出し、大水と土砂が体育室まで流れ込むほど酷いものだったそうです。溺れ谷の急勾配の谷や川から溢れた雨水は、凄まじい勢いで市街地へと下り、中島川添いの眼鏡橋をはじめ、大半の石橋群に相当なダメージを与え、その結果、平地の殆どが水浸しになり、山の緑の至るところに茶色い山肌が露出した跡が、いつまでも残っていたことを覚えています。その光景に、ひとりの長崎人として、故郷の大切なものを失ってしまった喪失感を抱いたことも覚えています。今回の西日本豪雨。被害に遭われて方々も同じ気持ちではないでしょうか。心が痛みます。何か私たちに出来ることは？ 残念ですが、ボランティアに行けるほどの体力もないし、現実的には、やっぱり寄付と、長い時間が必要だと思いますが、早期の復興を祈る事しかないのかと思ってしまう。

お祝いがふたつ。トマス小崎修道士の聖コルベの祖国ポーランドからの受勲と、崎濱校長先生の金祝。長年の苦勞が

報われましたね。昔、寮生の「悪ガキども」がとてもお世話になった阿野先生(修道士)が、生前、60歳を過ぎたころだったでしょうか、「一番若つかモンが一番働かんば！ って、修道院で言わるとさあ」と笑いながらポヤっていたことを、ふと思い出しました。修道院では60歳を過ぎてても「若つかモン!!」扱いなのですから、前述のお二人は、まだまだ、「やっつと中年」でしょうね。これから、末永く私たちを導いて欲しいと願っています。お二人とも、おめでとうございました。

悩み事が一つ。ここ3年間で2回の手術。緑内障です。おかげで左目は殆ど役に立たず、右目だけで何とか頑張ってます。従って、こういう作業も結構辛いものがあり、あまり無理はできないと感じています。会報の編集には、故水浦久之氏、谷崎神父の後を継ぎ、第5号から関わってききましたので、もう、そろそろ若手にバトンタッチをお願いしなければ。本部も支部も役員の高齢化が目立ってきています。何とか若者を引き入れて、若い力で同窓会組織を構築してもらいたいですね。(くまがわ)

原稿募集!

●近況報告を兼ねて「英彦の泉」に投稿してみませんか。800字程度にまとめて熊川へメール、または、聖母の騎士学園へ送付してください。

提出期限は毎年7月20日です。

●熊川メール: toshi_dominic_kumagawa@yahoo.co.jp